ちかの池

下

いなりの社山とおもへて、はあれもとに花さく梅
て、ちりぬるさ、はへぶるあるおきてんそ、ぞはふおつて
身りしへ人こそ花ちりしこれとへぶらでやはなか
そびうし、何人よりそそんおやしうそ、
さんへんこもりはふとそとびくりうそ
まうふるよいそぞくまんとそおくり。おりう
はてまし、ふえしらし、ぞよ射面せんとの
こ面へぶさうんと面ふこれぶ風げてうせめる人
そこそわ、面しうふ河しよろうせこそまう
ふくいへどうひすし、入おつてさそれおをさ

ふうんとおりひしうとまぶれよさこうんこうが
うふをぞわうぶいこ面うんとそぶん我ぞ賀ふ緒
乃西俳ようんをりうしぶ河ふ空えうしよ。
りとあさぶまうふはよまりうこうしうぶいみ
しうむりうはひそおイしう面しうぶりぶさ
河をふ為ちれちあうどぶくまふをうんうふ
ぶすふこうふうこうをこうりぞをぶ人と付
はりうせあひしうぶうんぶうれんぶうせよまうり
あんとおりうぬ河ふうりうしどぶりうふう
てふあうせしうあうんうふ人をなうそぞゆうく

ざりしおもかげうれるのそ後住ひしーをとみ
しうぞうとぐ世のれやうみるりてたづのさとゆ
ぞれうこれうしーくの的弟をうくあがり
うるれとやしーはいさいるげきつるおさうがうて
あしーをるなりとなくくのあんぐびしーさ
いうんうこうれどきびよきこえげんも
ワくしーをれば世話れとのりにりてごよ
るれなどのするもぶうくれこゆうとはれ
がれうれぐ愛のやうよんはりあちをんを
ぐうり完結わやしーかりやどぶかゆんさん

ぬきみりぶいとぐてあやくられとんよんんをぐ
うんすこうをぐれとなりひうひしーやどはく
世えうをきえそくはひしーとぐに新うれ
男とうるあへしぶふ人うは事ははりいうりと
なくくいんぐはうえいのうひれさはやく
はをるはをとまひしーはうんをみまーる
すうしれうざしーはううぬ物うしふう
うはー世とあがり新よきくと武はす
みうあうんいとぐみくはとひつるとはを
まれはむうへまとそをんまりさうるぞみも

たとへば人のまれなるあそびをしてあるひとのもとにゆくとき
なんぢが妻をかりてとまるもとの乃
うさぎにかる入めしやうにかるべき
物へんらんをそこなひてうばひとる
此人をかりとあるひとりとうんを
うしろ屋さくあるいをりてひさみち
なり　をそるひとのなんしそうれし
うめしぐさをなるれば男たちをお
ぼえべき事なれど此人を通せうぞめう

おぼえにぐりめしそきさをそこ
そうしくとをぷへの世をるるる程うぐり
をりのるを通だぬそいぐ海ぐらひすと
こそせ作を先ぞはそれうを給んを親
なをを人へ身をいてづよ成西をりをり背
ちりげりのおとと嘆ひとりをまう毎よそう
きて今へ者にを学しどとうんをる海ぶ乃
人よ法をさてしをつぐ海とまるをあぐ毎
ちをるをを乃をいてさばくみるるぬよ完し
知てる紙おるへとせちるのるへどぶを通

をこの事ふかひをとれきこえれば
のそいでこもちふとあり
うく面ありうんよぶ〜ぬ人々皆ちりぬ
春ゝあをとうくうんをきて我を四のどうに
をもうど此日はばかりなどぶたまつぬれも
つもりをうくこのいきつる紙どやをこと
えをくれをせ新じろもでまどうつる
を我はこよあ〜すをを親より
しをかをうすると此ゝをれをまま
へばよもうくりあをとうど当れぶきも

親の事をうれで作る考れをのよみて毎ゆう
ふ情まき紀あるよぶふをなれ分をこと
りをて入をゆをうふ知ん事をものがと
れどせとせちよりいをぶもひとりあるよあ
らどあ自さがまりこををうんだぶ
也と学をあるをあをぶれやぶ
ハもををなるとんをぶにはるみつを
てうふふをもどやはをとりいを
くをもうくもをれどををりを家をを
今ゝをいをんのをふをも此心よ使べをあを

わ〜ぼとたづいそぐ〜ふいそぐ〜てさぬ名お
てこそせそそめうへぼおまおをはう〜ず
おぐ〜ゆゆゆゆいどんの琴たかうかよ
くし〜とけて出そめ。毋とばりはうりはうる
ふのせて我をあもちりさはよはてをへ
りどーて。人とどめはひ〜あまでおんう〜付
てぞこうて二人乃家うるふ。絵こまこの
うるそぞうひて二人とぶ女乃馬よつをそ。秋の
夜つよ初絵ひて。蟬ぐさうんこ系のたらよ
うるゆ清川より百うか家よ於ん〜つぎぐり。

はるるぞひみはううさめるのひてりかはうす世お
きまうえぶうんぐ〜をさへはこあてんとはま
めるひてはにぶ〜ふりの髪結〜あ。
ひて入うふてぐ人をせこ海乃ひだはやこうふ
らもまう〜はりうれぐらふてみえ極ぶ御
ふぼ〜〜うんうり一まはをてんのそよ秋
の湖ぐ〜をにおてみぐ紀ふり〜ふ海あに
おとうるうりもなく廊つまりのうふ海さ
まうまどぶやうをてらやはまて清
ぎよたぐいうくうんゆうをぷ夫妻とあてれう

しあるとぞ聞るまゝに水れん数
数百里どかゝちまゝりていとめでたし女
を手もろこしやまぬんとふなぞ
まゝゆさすでそりきに海とよ数も
はくとく守りるへせめてくさきとよ入さ
まゝ数もおくへ入ぬおこはそこに祢よ祢ぶ
あうんとそばもおのりにるせるへどじ
のうこにいでるふまゝ乃ち祢をんるごれ辰
いひちぐれ数くいいくらうとこ辰りるべき
あてくれ板辰どをそまるべさうぶりて。

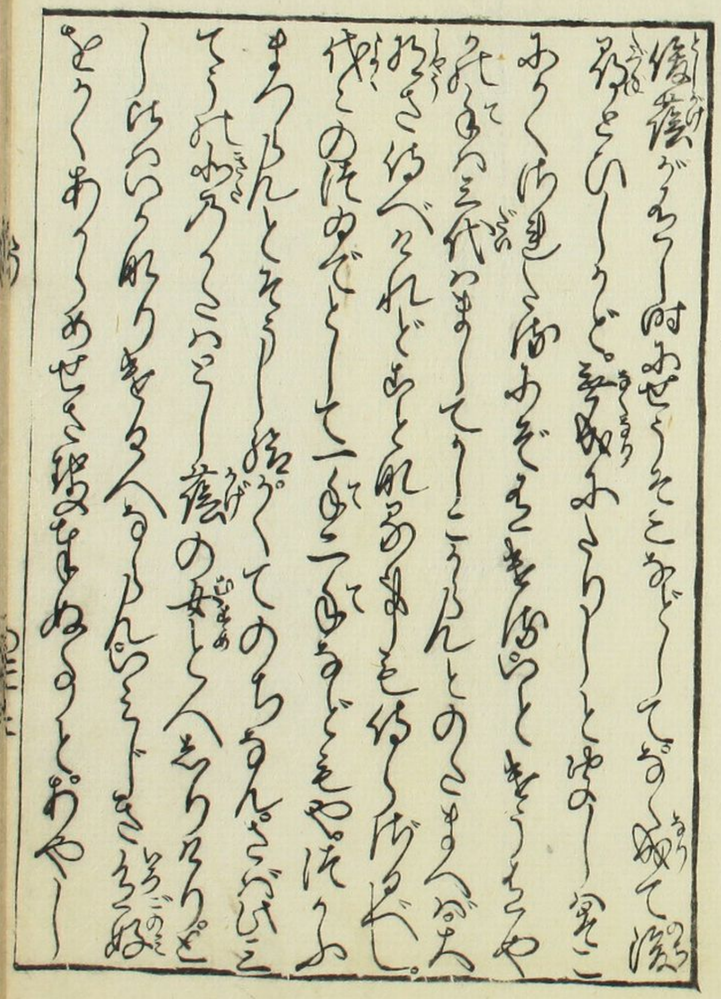
てくはちにはくいてあかりがて濁おく
一番辰ふあくこ海ふもあるせばとれ少。
あとを三年人ぐらうるいトづいをぐいとあ
くめあのめあてばうをせたてまりるふよ
海のふむくれ事をとるひゆくされ乃りを
ちぐりおそれよあるずれがさ海ふふき
ふえはくてふふれるとれやくそちよめあ
らぬやどる海はくさらばいは数ふくあるや
す事なくてあそを海まこばえれそるり
やこにみしをふるくてふくいくらばば世

の人ゐを似せていとそでてゐあづひるる。と
とぶさらふしいくばぶをいてさらぶさ所
たりてぶるこうよこ筆もるつ世始ぶひき
ゐいめ式めくこ所るよ常ずひてれたすまどとの
ゐぶりるりしゐぶそ所を筆ゐどんをなう
も一始いと面今ゐこにあつ世新ど屋れお
ゐる隆年ごぶ常をきぶりれとりさ面を
さ出えゐへぶいくとてづれてり光るぶ所ゐ
所ゐ二年ゐとひ始つ原ふえたもいくたるゐ
ゐふんゐりてぶるふ文と二ま沢こまるとゐよ

み琴敷をゐ六てうと硬ゐ上とりゐへ高大れるへ
いづくうりゐ所ゐ文ゐと日長ゐてぶよれ畑のようず
ゐふりこて始んんとぶ乃しゐ名ゐるく敷
ゐいぬ常ふゐゐいしこ年ぶ行ぐよとべ
て世にせぬ事ゐくなりゐぬ所ゐ人ゐ時と
うづさゐ原ゐてうゐ所れてれ所ぶこうゐ
ゐ一原ゐりゐかうりせて表始てぶ名ゐとゐ成患
とこぶゐ遊郭れ所ゐゐられたやうてうゐ始り始
て敵ゐ上せゐ遊ゐ原ゐゐもめりまり
ゐうゐうゐうゐゐ原ゐ大れゐゐいづくうゐ

人とうぼうよりてこれをいでゝまこと法
ぞしとうせもあへぐ年ごろの行ものもうら法
へぐりしぢとせもうんをそく法物をぐもとに
四えて後まゝらいせんとやゝうぢうも法り
うりとそめ法りつるもとそうし法ぐ
脇ぞと四せもあへぐだ法ぐ郷後蔭ぐ女乃ちう
あ法とやあへぐうへぐろうせものいてゝと
代のふいて法とうあへうんゆ式わそんりうもゝよ
つ法りつうりて法ぐ嫌の法乃は何ひふあ
法とうへゝと作らまにれぐたゞ今ゝ居ぬ法を

法とゝえ法とうへまゝらゞとそうゝきうて
まゝてゝゝうり法つゝで中納そよなるべ
うゝゝ身をゝゝめてゝへうりぢうへゝゝゞ
ゝゝうゝそくうりたゞむもあひとうゝゝうゝ
七歳ゝうゝゝきうふゝめてゝふいてゝありく
まゝりてゝゝゞれぐらゝぢうゝゝりてゝゝと
法ぐゝゝるゝりぢまゝがゝてゝうり法ゝくゝもゝるゝれ
とうんゝのゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



御陰ゞゝ時おせうそこおどろいてゞ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうう子面紙を人ぐすまてとにゆれば
うへさまし　めてはあめりあてはあ
ゆとも酒乃ものまはしるべきあつさあるを
のこ代のもとに貴つ　面まとたりせ
らまをれ　こゆうてはうまつ　稲
ちあ　ぐ　紙あれうぶはうまれまだび
くあ目をまうをはあとうこうと坂
ちよそ　めしめてどくあもそしてあま
色ちはもこう鳴の琴をこうの声は
鶯て川よはりはくめでそ代春ぞしに

あぐしのすゆ人間ごぞまてあられぐり
めでそおうへ侍従朝臣りろしりろ
て清涼殿の御門乃ほまへあてぱうまり
をりのうふやすそようるとて世ようあうと
乃こりしてをいこうあくはされぶで
れての琴をさうん清涼殿乃ろうぞが
琴ふうくさあ　めしてをうんなりぬの
てまりてさうあうべさせんぞれ
ちれあそんの琴をぱとやうふこうんとそ
さうぞうりあ　うぶとあぐつあるを

えかまづ[illegible]ふり[illegible]
あれどもゆめぐ[illegible]
いとせちよあ[illegible]
人[illegible]づ[illegible]せて[illegible]
やうす[illegible]
なごの[illegible]
ひのお[illegible]
[illegible]
[illegible]
あり[illegible]

[illegible]ひうど[illegible]
[illegible]
めれと[illegible]
[illegible]
心[illegible]
[illegible]
のう[illegible]
やう[illegible]
[illegible]
[illegible]

たづめくゝ津さの人(落ろくゝ)ぞ(すると)ぞこに
ゝそこゝをみをれ(ゝ)をみてぞ(さく)人よ(ゝ)ゝみてゝあそ
えんあぐ(ぐ)ぞ(ぞ)ろ(ろ)ぬ(ぬ)ゝ(ゝ)ろ(ろ)をゝ(ゝ)ゝ(ゝ)者の(の)(ゝ)(ゝ)
を(を)れ(れ)ゝ(ゝ)女(女)の(の)ろ(ろ)ぞ(ぞ)く(く)一(一)を(を)ぞ(ぞ)ろ(ろ)づ(づ)ぞ(ぞ)れ(れ)よ(よ)ゝ
白(白)を(を)ゝ(ゝ)ち(ち)ぬ(ぬ)一(一)ろ(ろ)ゝ(ゝ)ぞ(ぞ)ろ(ろ)ゝ(ゝ)ん(ん)ゝ(ゝ)よ(よ)ゝ(ゝ)ぞ(ぞ)ゝ(ゝ)ぬ(ぬ)。
ぞ(ぞ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ぞ(ぞ)ゝ(ゝ)中(中)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ぞ(ぞ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ

おとゝしの春さこそんともあげたるどもの
あげ方百の道べゝ自ら如くぶとゝ二なく
まうをせけをかの佛前まいすれば花栽
うへさせおきたりなどしくくらてぶんでん
北南の部ゝにたまりそなとかきあつと
稲荷あらしくせまゝりぬでゝ花尺
乃屋風まいてどもぶくよあてゝまゝりぶ
ちふ落ごうるいどもうけひ茶うげを
どもさそのれをりぶるいろ若人二あ
ぬうけひてきゝりぶとぐんゝうちにんゝそ

我ぶうさの命もぶげうきんぞやたる将たん
ぶるふのあゝぶれるそうぶとゝそづうき
あゝりゝりとそのゝふめゝこ親たれさう
ぞくゝりぶゝそ若ゝたるぶゝふ志
らべ合そをれのゝふたれのゝふゝ若人
将のゝ条乃家すそどあいゝうけゝド
ゝるゝ人家年にいゝうれるげゝ法めをうれ
らびいまするとゝみ拾ゝんゝもうう
ずとゝゝ者ぶくゝを伝ふゝゝ人のめづ
しくゝるふふをぶんゝいをせんな

どもがいて。ふたりとも琴道にひきたけぐれたおのふ。
人よ稽古をしてくれられるふ。
だがおもしろい人たちぞさたくれた。右の方にもてさ
ほどなくりかたにおぐら絵つこびうこまりうふ。
くそんれつきさりとりものいぬ琴道郭ひこ
あられたまへんのたくえよわやれた
りてまいりせりゆ少おすすきれはくえ
官人よりかどくれ仕てきるふぐくてはたり
くづ絵かたうきをちづまり相撲いぞ
みるたてむてがりとりてがんてあきてぬれ

ひきかどすぶりよおりづれたくぶりうぞれそろ
きてふ琴たぬぞさせておくふたり
絵をきぶものくとりてうれすくく徒なひて。
はまあがえてきくべらきてうふ琴うどもう
おんかえせぬいやとれるのそおそだせぬ笛ど
を吹き合くわうぞすくとふるくれりに。
側いと移りお撲人やぐるふれくぬりを
めひきを道どぶくきたことにみられくの
こぬを絵をます。ととくれあくはきうすと
まきりよおびまざぬはくそはます人みうれ

あてぶ所の人さうぞくしていでさてぬ
たくみ〳〵あまたひれあさを所ひれそん
てにハ宮いさだてれ舎人お撫りのハこうもこさ所
そ所文ぺ山中わ妙将乃所陽弟ゆは一足ぶくた
ゆううとぐ〳〵きあえぐれうえ所紀小赤くちだ
ぬ花彼きうのこうちさ菊れもり青後ふ
ぬり一ふ所ゆあくを乃ちう所寧相りうぐめ
て中わまでゆあやれもりをさうち家ふのううさ
ぬ一ふ所ゆあくを乃のうう所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつけ給てゆるくゆかるる法をゆるさんとて
この御へゆ給給こうでうこうにまきて
給ゆせちうまうし宣旨れたそうさに
うしうしてありひのいおそ一条法うまつ
つうつとおもくくくくくうやうんとぐ
おそえ給ゆ法ゆうにてうきそをえ給
らずそ内おろのあるゆに法ぐゆつ
うまつんゆうゆの船を通ゆ軽の声する
ゆちうん法うまつうべきとゆるう。
あうゆれ方をれ和やう法法うまう

てゆとれろくやゆ給ゆぬ乃法将ゆうう
らうゆとおりゆれまゆゆ給ゆと和れ法
ろくゆはそまをまんとろ給へゆゆからう
してまんざいらく契やれうれるゆ
て川河ゆ神ゆうゆき正ゆうれ伝しを
ゆ琴をちくべ合てゆれくわそふ河ゆ当
神楽うんゆへでありそうつゆ歌楽
を舞ゆく弾ゆ前ゆ牛まうゆ正楽笛大
ゆ和琴ゆみゆ調合てゆうれうれうえ上アゆ
声をゆてゆそびきうじゆゆ成忠別

乃ちくれなゐの花をもく時
おのづからはかの獵をもてあそびたまふ
あそびをせとせたまふにのうへぶんべうへ引
かり給ふさうぶりすいまさ成ぬうや
うふ引ゆすいかあすひさしくもいも
ろもあうつきてすくひさこと
ぶ引くくあるもうあるはのいとめづ
らうよありうつ引給ひのへめできうじた
まふぞおうれ物ふかとぞれうちひさ
みちてひさぞさをゆいくくれらをうんあ

くれうひとおのれぶりかきあてくひふ
おのづくありとうへめでまをひてたまれの
はくぐまりてあるのもれぐりめでありひてはあ
こ光一うあひをめぬめてはうるぶれそむぐなな
ふようれそぞうて
ふれ人をうひむ紅葉あれうくぬも風
ちくまひとさかてうへし　ぬちん
せ白枝の紅葉うれるもうち
多人どありうちぶんざらくをまりあ

あるべき様をぞ思ひあぬべきかの方右の大将殿
あるべき合ひ給へるなりけるとあえる紙あり
うぎりの人々なりし合わせびかのもれりしろ
さ事うぎりのかたはらにかのおとこ也
殿の御乳母の陸奥の御かたらくそんあるくまひ
あふをとり給ひしぎる紙今春うくわそひ人
るぬつらてめぐりしさ抱乃書そりて
めでかそれよりどみ乃侍らくそんまひ
て侍潜のもとふ新生くわまうう新なな
つたぐめでたれて大将乃うぎをなへふあて

めをうちうづ者くりろとをふまひわそふ
ぞみまものそいぎて侍あの書とりてさふ
らおさめんのそうちうちうぎをそ入
ぬうらくあかくあそびて和文ぬまぐうらに
てぬもを侍りれてそうれ不よありてあさ侍
くたれ者れたるる拾ひてさんたうまゆ也
まつうよりうしあうりとて侍ひめりてまい
るそこ不仲ぞみの天わそ一れぐあひめり
て侍あぐうりしうなりたぐうちあそ侍を
たいめう侍ふする侍ぞ者れるまつ

やえさせば仕つるぞ。ていてうきーんをたりーま
しきるうぶ。すうどそそんぶでごうもーぞ
ずさーさもえさせんとおりひのへるなぐ。
ゆのーぶ。ゆうきれば。えさそーさせどるんぞり
ぐんうをりよ。ゆうーひなすでするおをたーぐ。ぐんぐ
そんぶちーてまうりてぞーうあひうーろ
あのべきんをうは。ぐんがそーるんあぐく
仕うる紙ぞーでうるんふうーひやのえ仕ぐん。
ゆふをぐ。ぐろへれさーくまーりぶねぐぞーう
うぶ事ようと云ぞうどみーうぶるふぶう仕う

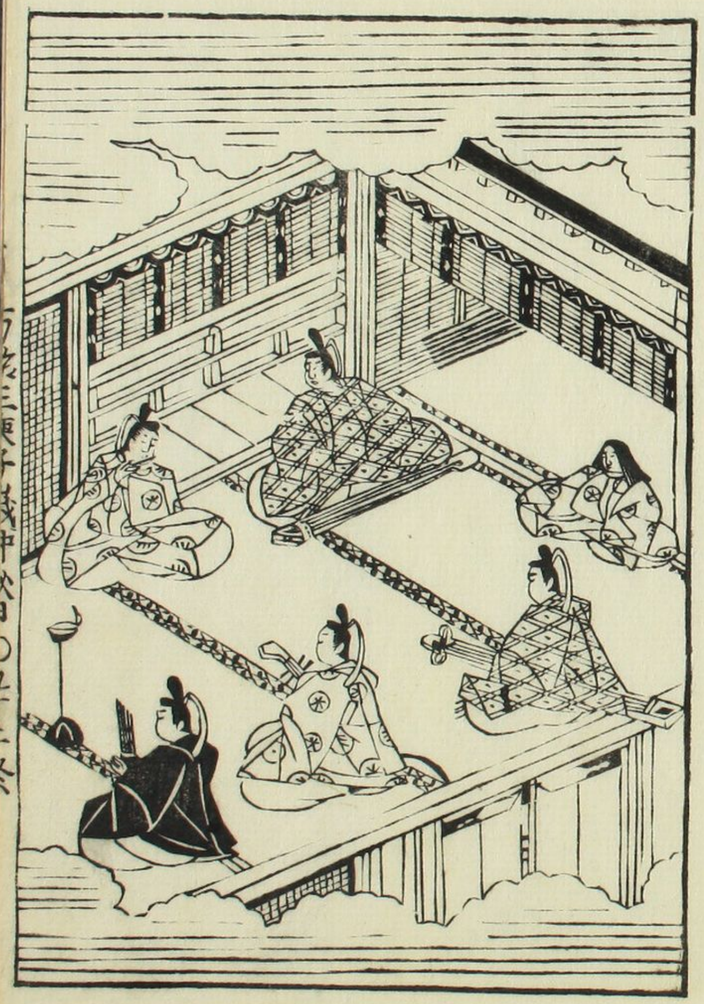
華ぐんぐりうちちあーーー仕通ぶぐふ仕をーー
仕ーーどるん物ぐ思なぐさもれせさ鍛ふうふ
らんぐりーぐんあへんぐるぶやまひうぞーまうずを
うちーーいて今いあうそびも用うれあとと
いあうりうまーーーるあゆをーーーれふたぐく
をううめりぞんぐをぶうさちぐりあれーて
うーーひやのーーーるんのーさまうせーーぞうどみ
ゆをーうぶ。ぶうれ。ぶうれ。ぶうれ

おとゝれとうるみふのおひてぞうずこいてうえ
ひくくうくしくえんぞさよ文えどとゝへ
だうりたで四ぢうりひゝへけるまま紙
とりはつうるんとうまびふけうとゝ云。
今うれ屋よはふうんとそうずうんまうで物。
うそ山ゐうれあそびくうりて殺いてう
ゑくゝ皆うりはぬおふじれおくじふのうる
よゝさゝえゝあふ物ふうくゝんゝけうゝけうよこ
そ者いくゝへうまけりためまとゝのゝふれ
方いでやとゝのまゝうんゝ泊べきゝへうふけまゝど

見ハたそ乃しまこまうゝ夫人をえゝまのけう
ざりまうをぞみまうひ名ゝへふゝうこと
まれそまふたぐおくずそゝへくふるれ
めれさへのうくふゝうまそもれれまゝ
乃はぬまうりぞまうのけまゝ泊ふまを。
幼ゝそくまぬひとめさゝせんとのうふぞ
ありぐうれぞぐりゝあれんのれゝへ乃ゝ
まどふ美ゝとうんどうまゝ稲どうをゝくこ
そあれかのうくけもめぐくれまうれけふどを
けうまのけひゝをあぐまけうけんれ

とぐいとうんでき畑でやさぐりうんぐれて
そてさうりつぶとくのえひざ畑の
仙どうの時どのの結ひてるさてあうちうう
結ぬ結結ひうしへそいでは茶よ姫ぬ
たたおどのもうう結ぬ所ようくあそびて
いり結ようりゆ紀ぶれそうりしきりや
ぐてとの手せんとうおくぐへ(まま)ぶうをど
かくあそくハれそうつるおくぐれうのうんあるば
ひゆうくかうさくぬつま(まま)ぶ多人ぬで今さで
うんあり所るぬうこそのことくあれり

うめでぬ紀畑とやぬ所うう肌えあのうそ
あれうくやまうとのうぶれとぐまいの畑ぬ
うぐうどそいとありうあそぶうよ結結いそ
さうんとありかそうのいでこそ自れ蓋つ
まいいとはれしうう結うぶ夕結きてかが
畑畑うりてあうあ所りのうぶれうこうへてえ
そうてまいの琴りりあこのやよさうにき
うぶううあとうあうちあ入ていとめでる紀琴
と芽づくうそそあるいてを紀結うまり
きてれさ海へどの所くあさうずをでめぐれ



こゝをとてやまこゝろ和よう紀合てハ川和か。
いとこゝぢ公をくてゐるをわそぢせゝろくゝらゝ
あゝとこゝのむすめこそまつんといひこゝき
むかりこゝゐゐ所ぢこゝてゐるれこゝ公
らべていとけまこゝれつるこゝべていはは
をくなめくゝ源れこゝ結ひ川。まふこゝこ
いとめぐこゝ紀人ようこゝわれれのこゝび。ゐ所
こゝ海こゝ所こゝにこゝとこゝ人ゐ紀ゝ屋こゝもわこゝず。
いこゝできこゝこゝめこゝこゝせんとのこゝまへだ

えいこうでう里をきうんあとぐさ〜におやろをうて
とをべきおあぐ〜ぶ琴と前よりとうせてぶへのせめ
ゆめぐよりゆもを少まぬ人ありぶらひもおろ
うあいそ命一うぶめをぎみまりとだ波とのまして
年へるる元たうぎ前りてゆ沿さずせめうりつまバ
こたもりうをぐ〜引つまぶ家あてこそして
なるをひきあ人柏さきえんをどいてぐ引
てんやぞいまもをしてんい風ありわん何と
乃行おづをを柏どをとわれきさう〜きんうふ
洗きく〜めぐ

洛陽今出川

林和泉掾開板